

第76回“社会を明るくする運動”伊勢崎佐波推進大会 報告書

令和8年7月29日

日 時 2026年7月16日（木）13:30～15:30

場 所 伊勢崎市境総合文化センター

先日の7月16日に境総合文化センターにて、第76回社会を明るくする運動佐波伊勢崎推進大会が開催されました。



当クラブからは11名の参加



セレモニー風

始めにセレモニーが行われました。臂市長の挨拶や役員紹介、内閣総理大臣からのメッセージ伝達等が行われ、社会を明るくする運動の意義や必要性が力強く示されました。

セレモニー後休憩を挟み14時頃から、『傷つける笑い、気づかせる笑い』と題して、桂花團治氏による講演がスタートしました。



講演風景

【講師】桂 花團治 氏

幼少期に吃音や赤面症、いじめを経験するも、漫才で人を笑わせる喜びを知り、それを乗り越える。20歳で故・二代目桂春蝶に入門し、「桂蝶六」として修業。古典落語の研鑽に励むとともに約20年間狂言を学び、甲高い声を生かした演目で高い評価を得る。2015年4月、70年ぶりに復活した名跡「三代目桂花團治」を襲名。現在は自身の経験を基にしたコミュニケーション論が好評を博し、多くの教育機関や企業・自治体で講演を行う、「大阪で一番多く教壇に立つ落語家」として知られている。

講演では、同じ「笑い」であっても相手を傷つけるものと、人を思いやり、気づきや前向きな気持ちを与えるものがあることについて、自身の経験や落語家としての視点を交えながら、ユーモアたっぷりに語られました。また、テーマに関連した落語を披露してくださり、その演目に込められた人情や教訓を分かりやすく解説していただいたことで、笑いが人を傷つけるものではなく、人を思いやり、気づきを与える力を持つことをより深く理解することができました。日常生活や職場、地域活動においても、言葉の選び方や伝え方一つで相手との関係性が大きく変わることを改めて考えさせられる内容でした。ロータリー活動においても、相手を尊重し、温かい対話を心掛けることの大切さを再認識する有意義な講演でした。

参加者 11 名

村岡会長、小沢幹事、久保木雅彦、高橋 郁夫、須藤正也、柳井正臣、松浦大耕、松島郁夫、下田仁、関根孝彦、鈴木淳志
(順不同、会長幹事以外敬称略)

報告者：下田 仁